

令和4年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)
成果報告書



令和5年3月
徳島県教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、徳島県が実施した令和4年度障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

東京パラリンピック競技大会後、様々なパラスポーツが各地で盛んに取り組まれ、障がい者スポーツは大変注目を浴びています。そして、生涯にわたって楽しめるスポーツと出会う場でもある、特別支援学校でのスポーツ活動の取組は、これからますます重要になってきています。

こうした中、平成 29 年度より 5 年間取り組んできた Special プロジェクト 2020 体制整備事業での成果を生かしつつ、生涯にわたってスポーツ活動を継続するための基盤作りの発展・充実を目指し、障害者スポーツ推進プロジェクトを受託し新たに特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業に取り組みました。

この事業においては、スポーツ大会の開催、指導者の派遣、各関係機関との連携を 3 つの柱とし、取り組んで参りました。長引くコロナ禍ではありましたが、感染症対策を十分に行い、4 つのスポーツ大会を実施しました。その中には従来のスポーツ大会に加えて、「オンライン」という、コロナ禍だからこそ生み出された成果ともいえる新たなスポーツ大会を開催できました。具体的には、本県で考案した「ターゲットボッチャ」や「オンラインバスケット」による先駆的なスポーツ交流大会でした。オンラインスポーツとして定着してきたターゲットボッチャの大会には、四国内の特別支援学校も参加し、大変な盛り上がりを見せました。また、そのターゲットボッチャは、距離にして 7700 キロ離れたジョージアのパラアスリートとのリアルタイムでの交流試合も可能にしました。重度障がい者も楽しめる「ボッチャ」の新しい可能性が開花した取組でした。実会場においても、久しぶりに子どもたちの生き生きと活動する姿を見ることができ、スポーツ交流大会の意義を改めて感じることができました。また、指導者派遣事業では、各校のニーズに応じて、様々なスポーツにおける専門のトレーナーから指導を受け、特別支援学校でのスポーツ活動の促進・充実につなげることができました。各関係機関との連携では、新たに徳島県社会福祉事業団と連携し、障がいのある人もない人も、一緒に楽しむことができるイベントに参加し、障がいへの理解や、交流の促進につなげることができました。

事業の実施にあたり、県内の全ての特別支援学校の協力を得て活動に取り組むとともに、教育関係有識者、徳島県障がい者スポーツ協会、医療関係者、福祉施設関係者、県ダイバーシティ推進課等の参画により実行委員会を組織し、活動内容の検討を行いました。

本報告書は、上記内容を実践した成果を検証するために、作成したものです。多くの方々に御覧いただき、忌憚のない御意見、御助言を賜れば幸いです。

最後になりますが、本事業の実践にあたり、御指導、御協力をいただいた、関係機関の方々や各特別支援学校の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和 5 年 3 月

令和4年度障害者スポーツ推進プロジェクト
(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)
成果報告書(目次)

1	事業の目的・概要	2
2	県立特別支援学校の概況	3
I 実行委員会		
1	実行委員会概要	5
2	検討状況	
	第1回実行委員会	6
	第2回実行委員会	6
	第3回実行委員会	7
II 活動報告		
1	スポーツ大会の開催	
	(1) オンラインバスケットボール大会	9
	(2) 第2回特別支援学校対抗ボッチャ大会	10
	(3) 令和4年度特別支援学校とくしまスポーツ交流大会	11
	(4) ジョージアと徳島県とのパラスポーツ交流会	12
2	指導者派遣事業	13
3	各関係機関との連携	16
4	活動の成果と課題	17

障害者スポーツ推進プロジェクト

(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)

1 事業の目的・概要

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業）」は、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、障がいの有無に関わらずスポーツに親しめるようにするためには、障がい者特有のスポーツの実施に係る障壁の解消と、スポーツ施策の実施体制上の課題の解消を図ることが不可欠である。また、スポーツ基本法第9条に定められている「スポーツ基本計画」においても、障がい者スポーツ振興のための体制や方策の充実が重点的に盛り込まれている。このことから、本事業では、障がい者が生涯にわたってスポーツを実施するための基盤を整備する観点から、特別支援学校における運動・スポーツ活動等の促進を図ることを目的として実施するものである。

本県においては、2017年度から実施していたSpecialプロジェクト2020体制整備事業により培ってきたネットワークを活用するとともに、新型コロナウイルス感染症対策や新しい生活様式に対応した新たな取組を導入し、特別支援学校を中心としたスポーツ活動に取り組む。

本県では、2016年に「徳島県障がい者スポーツ協会」が設立され、県内各地でボッチャやカローリング等の活動が行われ、各種大会が開催されるなど、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境づくりが整ってきたところである。

また、県西部においては、総合型地域スポーツクラブや社会福祉協議会、特別支援学校や地元自治体らによる「にし阿波・パラスポーツ推進協議会」が設置され、各関係機関が連携した障がい者スポーツの普及や裾野の拡大に向けた取組が進められている。

こうした中、本事業では、これまでの事業で培ってきた成果を生かすとともに、これまでの取組から見えてきた特別支援学校における運動・スポーツ活動促進のための課題解決を図ることを目指し、本事業を推進する。本事業をとおして解決を目指す課題は次のとおりである。

①これまでの成果として本県で普及してきたボッチャやターゲットボッチャをはじめとするスポーツ活動への取組意欲の維持・向上、及びニュースポーツ等を生涯スポーツとしてのさらなる定着を図るとともに、コロナ禍における新たなスポーツ大会の開催方法や種目の検討により、日頃の練習の成果を披露する場やスポーツをとおした交流機会の確保、スポーツ活動への参加機会の確保や制限の緩和を図ること。

②有資格者スポーツ指導員等の派遣により、ニュースポーツ等における指導者不足の解消及び効果的な指導の充実、各学校の地域性や児童生徒の実態に応じたスポーツ活動の普及促進・充実を図ること。

③徳島県障がい者スポーツ協会や徳島県社会福祉事業団等関係機関との連携を図ることにより、特別支援学校に在籍する児童生徒の卒業後の継続したスポーツ活動につながる基盤作りを図ること。

これらの課題解決を目指し、徳島県障がい者スポーツ協会と連携したスポーツ大会の開催及び、モデル校6校への有資格者スポーツ指導員等の派遣、徳島県社会福祉事業団等関係機関と連携し、障がい者スポーツの普及啓発活動に取り組むことにより、児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しみ、活躍・自己表現できる場となる基盤作りの推進を図る。

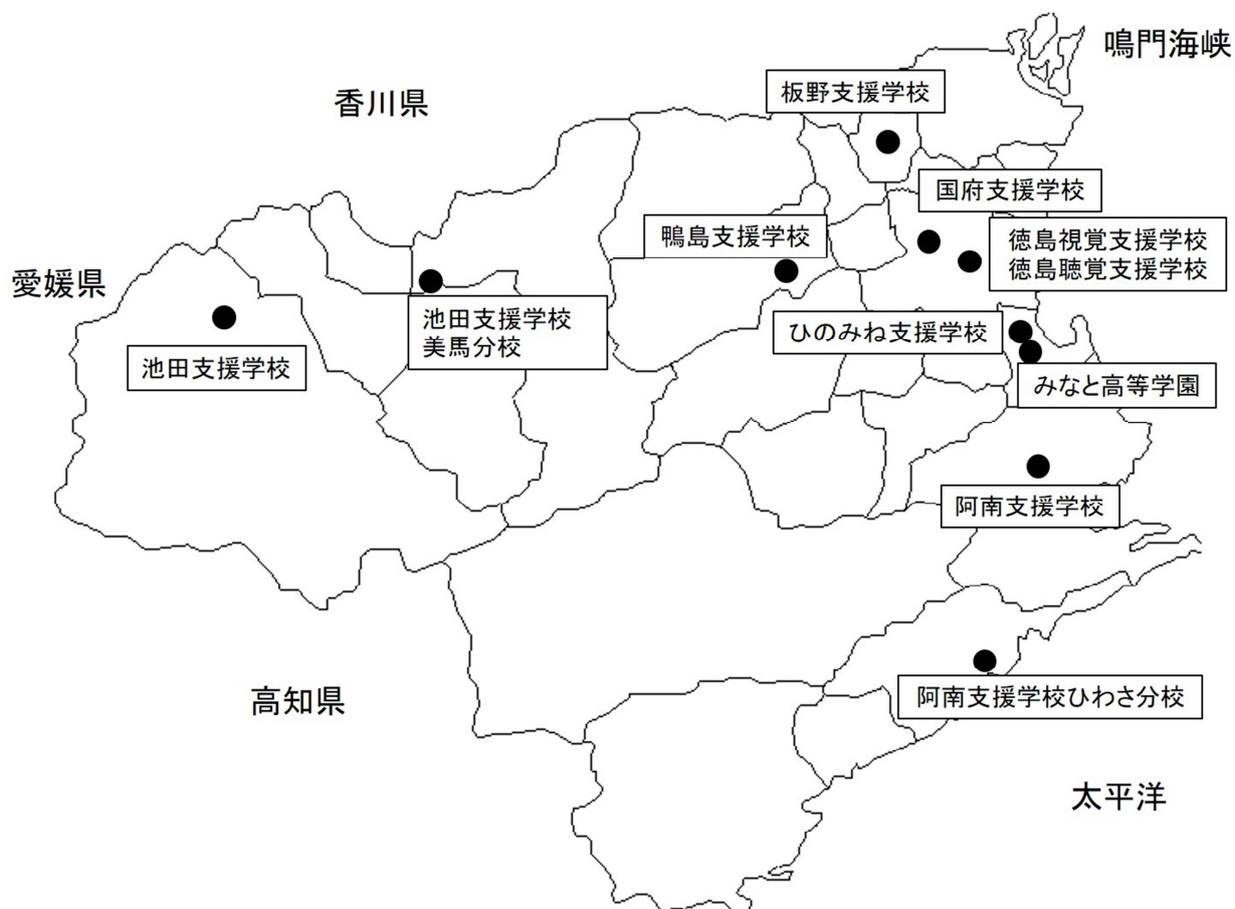
なお、本事業の実施にあたっては、定期的な実行委員会の開催により事業の評価と改善を行い、特別支援学校におけるスポーツ・運動の促進について検討する。

2 県立特別支援学校の概況

徳島県内には、県立の特別支援学校が 11 校設置されており、概要は次のとおりである。

(R4.5.1 現在)

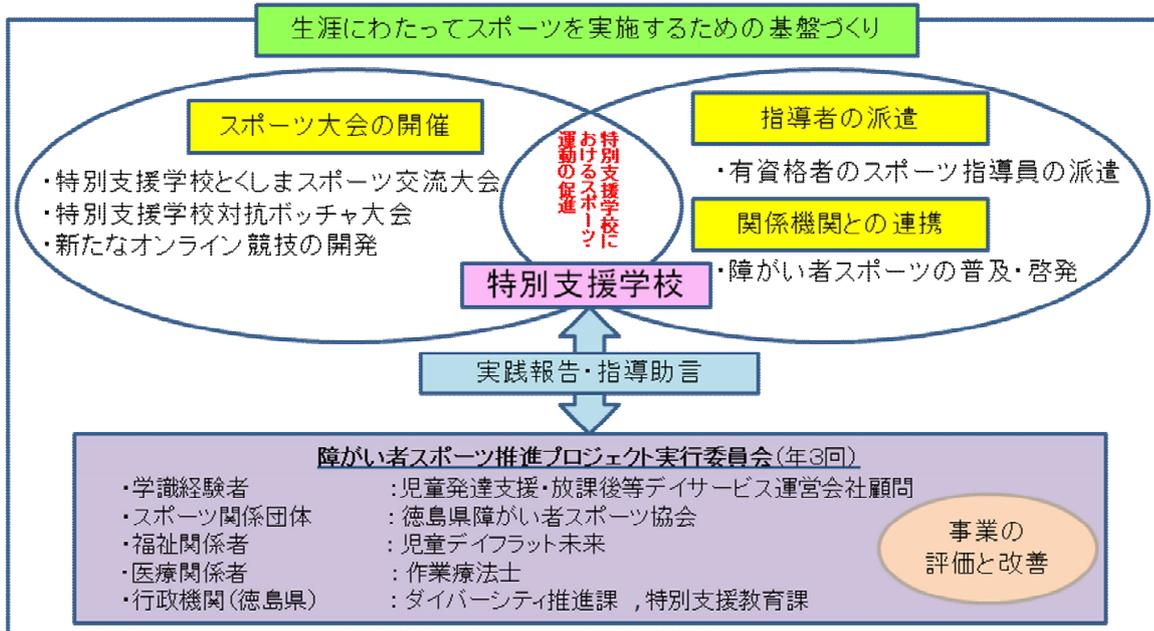
	学校名	所在地	学部 生徒数	障がい種
1	徳島視覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 21 名	視覚障がい
2	徳島聴覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 39 名	聴覚障がい
3	板野支援学校	板野郡板野町	小中高 201 名	肢体不自由、病弱、知的障がい
4	国府支援学校	徳島市国府町	小中高 284 名	知的障がい
5	鴨島支援学校	吉野川市鴨島町	小中高 18 名	肢体不自由、病弱
6	ひのみね支援学校	小松島市中田町	小中高 52 名	肢体不自由
7	阿南支援学校	阿南市上大野町	小中高 122 名	知的障がい
8	阿南支援学校ひわさ分校	海部郡美波町	小中高 19 名	知的障がい
9	池田支援学校	三好市池田町	小中高 76 名	知的障がい
10	池田支援学校美馬分校	美馬市美馬町	高 31 名	知的障がい
11	みなと高等学園	小松島市中田町	高 78 名	知的障がい、病弱



I 実行委員会

1 実行委員会概要

(1) 事業実施体制



(2) 委員会の目的

スポーツ庁の委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業）」を実施するにあたり、特別支援学校が地域の障がい者のスポーツ活動の拠点の役割を担う方策や、児童生徒が生涯にわたってスポーツを継続していくことを目的とした、卒業後を見据えたスポーツ活動の在り方を検討するとともに、本事業の評価を行う。

(3) 検討事項

- ・徳島県内のスポーツ・福祉関係者等（行政、学校、スポーツ団体、医療、福祉、有識者等）から構成し、徳島県内の関係機関のネットワークを構築する。
- ・地域の障がい者スポーツ活動の拠点としての特別支援学校の在り方について検討する。
- ・事業に関する評価や改善、児童生徒の卒業後を見据えた今後のスポーツ活動の在り方について検討する。

(4) 委員名簿（敬称略）

区分	所属・職名	氏名	備考
学識経験者	児童発達支援・放課後等デイサービス運営会社顧問	富樫 敏彦	委員長
スポーツ団体	徳島県障がい者スポーツ協会 事務局長	相原 佳子	
医療関係者	医療法人燈来会 大久保病院 作業療法士	吉野 哲一	
福祉施設関係者	徳島県社会福祉事業団 児童デイフラット未来 作業療法士	森本 奈都紀	
行政	徳島県ダイバーシティ推進課 課長	阿部 篤	
	徳島県教育委員会特別支援教育課 課長	田中 清章	

2 検討状況

(1) 第1回実行委員会

ア 日時 令和4年8月29日(月) 15:00~16:00

イ 場所 徳島県庁 403 会議室

ウ 出席委員 6名

エ 概要 委員長選任、
昨年度の取組と今年度の取組について、
意見交換

オ 委員からの主な意見等

- ・コロナ禍でもできることを考える中で、「オンラインバスケット」という新しい取組にも挑戦するということが様々な工夫を行いながら取組を継続できている。
- ・特別支援学校でのボランティアなど、障がいの有無に関わらずお互いに協力し活動できる方策なども考えていくことが大切である。
- ・スポーツの競技やルールについて、特別支援学校の先生が指導を受ける機会が何回かあればよいのではないかと。
- ・スポーツ協会主催で障がい者スポーツ指導者研修会というものがあるので、是非、特別支援学校の先生に周知をお願いしたい。
- ・全国障がい者のスポーツ大会でボッチャが正式な種目になりましたが、徳島県は選手の育成が課題となっているので、若い特別支援学校の学生さんから普及したいと思っている。
- ・オンラインバスケットの実施方法について、共有したい。

(2) 第2回実行委員会

ア 日時 令和4年12月26日(月) 16:00~17:00

イ 場所 徳島県庁 10F

Tokushima Aworking AI 会議室

ウ 出席委員 5名

エ 概要 事務局による事業の進捗状況説明、
意見交換

オ 委員からの主な意見等

- ・コロナ禍でなかなか実際の大会を行うことが難しいことが続いていたが、ボッチャ交流大会の盛り上がり方をみると、やはり他校の生徒との交流というものがとても大切だということがわかった。また、実際に試合をする中で、目標ややりがいが出てくるので、これからも、このような取組を進めていってほしい。
- ・徳島県で開催しているボッチャ大会に加え四国大会、さらに、全国のボッチャ甲子園などに繋ると競技の向上や、普及啓発になる。
- ・第1回実行委員会でお話した障がい者スポーツ指導者研修会には20名の受講があり、特別支援学校の先生方も7名参加し、障がい者スポーツの普及につながった。
- ・オンラインバスケットは、実際に集まることができなくてもオンラインで他校との交流を持つことができる貴重な体験となったと思う。



(3) 第3回実行委員会

- ア 日時 令和5年2月15日(水) 10:00~11:00
イ 開催方法 徳島県庁 10F
Tokushima Aworking AI 会議室
ウ 出席委員 5名
エ 概要 今年度取組の報告及び最終評価、課題と今後の方向性

オ 委員からの主な意見等

(ア) スポーツ活動

- これまでの取組を通して、継続してきたものはさらに拡充し、また新たに取組んだものについては、改善を進めていってほしい。
- ターゲットボッチャは、今回、ジョージアとの交流試合という形で、新たな可能性を感じさせてくれた。
移動が難しい肢体不自由の生徒のための「ターゲットボッチャ」への参加など、新しい展望が見えてよかった。
- 特別支援学校対抗ボッチャ大会やとくしまスポーツ交流大会を開催できたことで、子どもたちのモチベーションも上がり成果があった。

(イ) 今後の活動について

- 来年度は新たに B&G 財団との連携を、このスポーツ推進プロジェクトの一環として行う予定になっている。
- この事業を通して構築した多くの関係機関との連携を、これからもより充実したものとし、生涯にわたって取り組んでいける環境整備につなげていってほしい。

II 活動報告

1 スポーツ大会の開催

(1) オンラインバスケットボール大会

ア ねらい ターゲットボッチャに続く、新たなオンライン競技を開発し、コロナ禍における児童生徒のスポーツ活動への参加の機会や日頃の練習の成果を披露する場を確保すると共に、取組意欲の維持・向上及び学校間での交流を深める。

イ 日時 令和4年10月28日(金) 15:00~16:30

ウ 場所 各特別支援学校(3校:Zoomを使用して各会場を中継)、県庁

エ 参加者 県内特別支援学校バスケットボール部(3校)生徒37名

オ 内容 オンラインを活用したバスケットボール競技による大会を開催した。参加校3校の会場をオンラインでつなぎ、「パス」「ドリブル」「シュート」の3種目の合計得点で勝敗を競い合った。



【パス王決定戦】



【ドリブル王決定戦】



【得点王決定戦】



【開会式の様子】

カ 成果等

本県では、コロナ禍におけるオンライン競技として「ターゲットボッチャ」を開発し、大会が開催できるまでに普及した。コロナ禍で多くの大会や交流学习が中止となる中、オンラインの活用はコロナ禍における新たなスポーツ活動や交流の場となった。このようなオンライン競技の有効性を捉え、新たな競技として「オンラインバスケットボール」を開発し、県内特別支援学校のバスケットボール部を中心とした大会を開催した。

県内特別支援学校には3校のバスケットボール部があるが、コロナ禍となり、練習の成果を披露する機会がなくなり、各校とも生徒の取組意欲の維持が課題となっていた。大会をとおして参加した生徒達からは「久しぶりに交流ができて楽しかった」等の感想を聞くことができた。また、各校においては今大会に向けて目的を持った練習の実施や試合を通じて互いの成果を確認し合う機会となり、今後の活動意欲の向上へとつなげることができた。

(2) 第2回特別支援学校対抗ボッチャ大会

ア ねらい	徳島県障がい者スポーツ協会との連携により、特別支援学校でのさらなるスポーツ活動の充実を目指す。また、ボッチャ等の「障がい者スポーツ」の普及・促進を図るとともに、大会をとおして、学校間や福祉施設等利用者の方々との交流を深める。
イ 日 時	令和4年11月30日(水) 10:00~15:00
ウ 場 所	現地会場：日本フネン市民プラザ オンライン会場：各特別支援学校 (Zoomを使用して各会場を中継)
エ 参加者	70名 県内特別支援学校：8校22チーム(61名) 障がい者福祉施設：2施設3チーム(9名)
オ 内 容	「ボッチャの部」 現地会場にて、徳島県ノーマピック・ボッチャ大会競技規則に則り、団体戦によるトーナメント戦で勝敗を競い合った。また、試合コート以外の他に交流用コートを設け、学校間による交流を図った。



【現地会場の様子】



【表彰式の様子】

「ターゲットボッチャの部」

ボッチャの用具(ターゲットマット)を使用した独自ルールの得点競技をトーナメント戦で勝敗を競い合った。また、オンラインで各学校と現地会場をつなぎ、開会式から閉会式まで、現地会場とオンライン会場で大会の様子を共有しながら実施した。



【オンライン会場の様子】



【現地会場との中継】

カ 成果等

ハイブリッド開催としたことにより、オンライン会場では、コロナ禍や障がいの程度に関係なく参加でき、誰もが大会に参加しやすい環境を設定できた。

現地会場では、白熱した試合が繰り広げられ、日頃の練習の成果を発揮する場や学校間での交流の機会だけでなく、現地会場ならではの緊張感に包まれた大会の雰囲気を感じながらの競技経験は、子どもたちにとって貴重な体験である。また、本大会では、昨年度に引き続き、徳島県障がい者スポーツ協会と連携して大会を開催した。関係機関とのつながりは、今後、児童生徒の卒業後の生涯スポーツとしての基盤づくりにつながることを期待される。

(3) 令和4年度特別支援学校とくしまスポーツ交流大会

- ア ねらい ターゲットボッチャ、ボッチャ、バスケットボールのスポーツ大会を現地会場とオンライン会場を設けて開催し、児童生徒の参加機会の拡充を図る。また、オンライン会場の種目では、四国内の特別支援学校にも参加を呼びかけ、各学校間の交流を深める機会とする。
- イ 日 時 令和5年1月17日(火) 10:00~15:00
令和5年1月18日(水) 10:30~15:00
- ウ 場 所 各特別支援学校 (Zoomで各会場を中継)、北島北公園総合体育館
- エ 参加者 113名 県内特別支援学校8校24チーム(100名)
県外特別支援学校4校4チーム(13名)
- オ 内 容 2日間の日程で開催し、1日目はオンライン会場での「ターゲットボッチャの部」、2日目は現地会場での「ボッチャの部」、「バスケットボールの部」を実施した。「ターゲットボッチャの部」では、香川県、愛媛県、高知県の県外特別支援学校からも参加があり、県内外を通じた学校間の交流を図った。



【オンライン会場：ターゲットボッチャの部の様子】



【現地会場：ボッチャの部、バスケットボールの部の様子】

カ 成果等

令和2年に本県で肢体不自由の児童生徒を中心とし、オンラインでできるスポーツ活動として考案した「ターゲットボッチャ」は、障がい種別に関係なく、オンラインスポーツとして定着が図られ、コロナ禍における児童生徒のスポーツ活動への参加機会の確保・拡充につながっている。オンライン会場の設置により、県外からも容易に参加できるなど、時間や距離の制約を超えた新たな交流の場となっている。

また、応援の鳴り物音が響く臨場感あふれた現地会場では、3年ぶりとなるバスケットボールの交流試合を開催、「ボッチャの部」では、出場校数やチーム数が増えるとともに、各校とも技術の向上を感じる白熱した試合展開は、特別支援学校においてボッチャ競技の定着と普及がなされてきたことがわかる。参加生徒からは「来年もお願いします」や「他校の選手と戦えて楽しかった」など活動意欲の高まりや大会をとおして刺激を受けた様子が見られた。

(4) ジョージアと徳島県とのパラスポーツ交流会

- ア ねらい 東京 2020 パラリンピック競技大会で本県の共生社会ホストタウンとなったジョージアのパラアスリートと、パラスポーツを通じたオンライン交流を実施し、共生社会の実現を目指す。
- イ 日時 令和5年1月23日(月) 15:00~16:30
- ウ 場所 各特別支援学校 (Zoomで各会場を中継)
徳島県障がい者交流プラザ体育館
- エ 参加者 25名
板野支援学校、鴨島支援学校、ひのみね支援学校
障害者支援施設「希望の郷」
ジョージア代表チーム、クタイシ・ボッチャクラブ
- オ 内容 オンラインを活用して、パラアスリートであるジョージア代表選手やクタイシ・ボッチャクラブの選手、県内障がい者施設利用者の方々と「ターゲットボッチャ」による交流試合を実施した。また、学校紹介や質問コーナーなどの時間を設け、国際交流を図った。



【ジョージア語を交えた学校紹介】



【交流会の様子】



- カ 成果等 ダイバーシティ推進課と協力し、本県特別支援学校において普及したオンライン競技「ターゲットボッチャ」とおした国際交流を実施できた。質問コーナーでは、「ジョージアでおいしい食べ物は？」などジョージアに関する質問の他、パラアスリートに直接質問することができる貴重な機会に「ボッチャの練習はどれくらいしていますか」「どんな道具を使っていますか」などボッチャ競技について、積極的な質問も出された。

交流試合では、ジョージア代表選手の競技を目の当たりにするとともに、代表チームに勝ちたいと各チームが意気込み、試合に挑んだ。初めは緊張していた生徒達も「ターゲットボッチャ」を通じて互いに競い合ううちに、楽しさやうれしさといった感情を共有することで、自然と緊張もほぐれ、スポーツを通じて国籍や言語、文化などの違いを超えた国際交流ができた。

また、コロナ禍になり、肢体不自由のある児童生徒にとっては、スポーツ活動への参加や交流の機会が大きく減少し、その確保が課題となっている。そのため、今大会は肢体不自由部門の児童生徒を対象として実施した。オンラインの活用は様々な制限を超えて、誰もが参加しやすいツールであるため、オンライン競技による大会の開催は、コロナ禍において活動制限を受けやすい肢体不自由のある児童生徒のスポーツ活動への参加機会の確保や取組意欲の維持向上につながっている。

2 指導者派遣事業

ア ねらい 日本パラスポーツ協会認定障害者スポーツ指導資格保有者等の派遣により、①各特別支援学校の地域性や実態に応じたスポーツ活動の普及促進・充実を目指す、②ニュースポーツ等における指導者不足の解消及び教員の指導力向上を図る。

イ 対象校 6校

ウ 実践内容

①徳島聴覚支援学校（実施種目：卓球、実施回数：7回）

講師：徳島県卓球協会理事長 藤浦 哲夫 氏

対象生徒は卓球部所属の中・高等部合わせて7名である。卓球部は、県内の総合体育大会や新人戦等の大会出場に向けて週4日の練習を実施している。指導内容は、大会出場に向けた基本練習から実践練習、大会後の反省を踏まえた事後練習に取り組んだ。

活動成果としては、基本的な技術の向上や大会を見据えた課題練習により、第59回全国聾学校卓球大会香川大会に4名が出場し、練習で身に付けたプレーや試合運びができるなど指導内容を活かして試合に臨むことができた。また、練習では講師のハイレベルな技術を目の当たりにすることで、自分のプレーへの気付きや研究しようとする姿が見られるなど向上心を持って練習に取り組む選手が増えた。



②国府支援学校（実施種目：サッカーの基礎、実施回数：3回）

講師：元ヴォルティススクールコーチ 尾形 裕 氏

対象児童は、小学部中学年体育Aグループ14名である。個々に運動能力の幅や経験の差があるとともに、ボールを使って体を動かす活動経験が乏しかった。指導目標を講師と共有し、①「ルールが理解できているか」②「チャレンジできているか」③「楽しめているか」の3点として取り組んだ。

指導成果としては、実態差や経験差に応じたスモールステップでの活動により児童全員が個人的なスキルの向上につながり、もっと上手になりたい、挑戦したいという意識の変化が児童の様子からうかがえた。また、今回の指導では、遊びからゲームまでの一連の学習を通してボール運動の楽しさを学習することができた。また、教員の学びも深まり、さらに発展した活動や協力し合える授業内容、他のボール運動にもつなげていきたいと考える。今後も外部講師の授業参加の継続を期待するとともに、児童にとっては、地域のスポーツ教室等への利用の促進につながることや余暇の充実、社会体育への参加のきっかけになっていくことを願っている。



③阿南支援学校（実施種目：マラソン、実施回数：3回）

講師：徳島県トレーナー協会所属 吉成 侑弥 氏

対象児童生徒は、小学部13名、中学部21名である。今回の指導では、運動習慣や正確な身体の動きを身に付け、運動能力の向上につなげるとともに、地域の駅伝大会と校内マラソン大会の出場を目標に取り組んだ。

指導成果としては、小学部では、ストレッチや身体の使い方を意識した運動を中心に行った。初めは指示された動きに苦戦しながらも、直接指導を受けたり、講師の動きに注目したり、意欲的に取り組み、身体を動かすことの楽しさを実感することができていた。また授業内容や指導方法など教員にとっても有意義であった。中学部では、ラダー等を使った足の運び方や体重移動、ランニングフォームの確認を中心に、腕の振りや足上げ、協応動作を意識した運動を取り入れた。指導後も地域の駅伝大会や校内マラソン大会で活躍することを目標に日々の練習や授業への意欲が高まった。

今後は、駅伝大会やマラソン大会だけでなく、多くのスポーツに携わる機会を設け、スポーツを通して、同年代の子どもや地域との交流を図ることを目指したい。



④池田支援学校（実施種目：水泳、実施回数：5回）

講師：徳島県西部水泳振興会 指導員 上田 義明 氏

対象児童は、小学部体育Aグループ11名である。水慣れから全ての泳法の基礎となるバタ足泳ぎの習得に向けて取り組んだ。

指導成果としては、専門の指導者に指導してもらうことで、初めて大きいプールに入る児童も水の中でジャンプしたり歩いたりする水慣れからの指導により、徐々に浮力や抵抗など水の特性を理解し、楽しみながら上達することができた。バタ足泳ぎの習得に向けて、プールサイドに腰掛けてのキック、壁につかまっのキック、ビート板を用いてのキックと段階的に練習することで、バタ足泳ぎができるようになり、最終的に20m近く泳ぐことができた児童や、補助なしで泳ぐことができた児童もあり、短期間で大きな成果を得ることができた。今後も継続することで、基礎体力の向上や4泳法の取得も可能であると思われ、大きな効果が期待される。また、地域のスポーツクラブを活用することで、地域活性化にもつながると考える。



⑤池田支援学校美馬分校（実施種目：体幹トレーニング、実施回数：3回）

講師：徳島県障がい者スポーツ協会 指導員 遠藤 恭弘 氏

対象生徒は、高等部体力づくりAグループ21名である。日頃の授業で実施しているランニングとサーキットを中心として、指導や助言を受けるとともに、普段のサーキットトレーニングで不足している下半身の使い方などのトレーニング方法を指導に取り入れてもらった。

指導成果としては、スクーターボード等のサーキットトレーニングに活用できる用具やその使用方法を提案してもらい、新たに活動に取り入れることができた。また、これまでのトレーニングにゲーム性を取り入れた活動により、生徒がより意欲的にサーキットトレーニングに取り組むことができた。

今回の指導では、生徒だけでなく教員にとっても自分たちでは思いつかないような新しい方法を学べる良い機会となった。



⑥みなと高等学園（実施種目：陸上、実施回数：3回）

講師：日本パラスポーツ協会認定障害者スポーツ指導員 永井 明人 氏

対象生徒は、陸上部に所属している5名である。陸上部はこれまで県高校総体や記録会、全国障害者スポーツ大会など各種大会に参加し、それぞれが目標を持ち取り組んできた。一方、コロナ禍となり、スポーツに対する意欲の低下を感じ始め、活動への意欲や積極性の継続が課題となっていたところである。

今回の指導では、陸上競技において最も大切な姿勢作りや、体幹トレーニングやスクワットを中心としたトレーニングをサーキット形式で受けた。指導成果としては、指導を受け、姿勢作りの重要性を理解し、自宅でも主体的に姿勢チェックや姿勢作りを行ったり、フィジカルトレーニングに対する意識が高まったりするなど、外部専門家からの指導を受けたことにより、活動に対する意欲の向上を感じた。

今年度は、全国障害者スポーツ大会への参加を最大の目標として取り組み、3名が出場した。コロナ禍で外部へ出かけることが少なくなっているため、積極的に地域の活動や行事に参加し、それぞれがしっかりと目標を持った上で、個の専門性を高め、全国障害者スポーツ大会で、個々の選手が練習の成果を発揮できるよう、教員も柔軟に指導できる専門性を高めていきたい。



3 各関係機関との連携

ア ねらい 徳島県障がい者スポーツ協会との連携によるスポーツ大会の開催や徳島県社会福祉事業団主催のイベントと連携し、地域住民の方への障がい者スポーツの普及啓発につなげる。また、各関係機関との連携により、児童生徒の将来を見据えた生涯スポーツへとつながる取組とする。

イ 催し 第17回交流プラザフェスタ
ウ 日時 令和4年8月7日（日）9：30～15：00
エ 場所 徳島県障がい者交流プラザ
オ 内容 徳島県社会福祉事業団主催のイベントと連携し、催し会場に本県特別支援学校で取り組んでいる障がい者スポーツ「ターゲットボッチャ」の体験コーナーを設置した。来場者に体験的に障がい者スポーツに触れてもらう機会となるよう設定した。



【体験コーナーを設置】



【体験コーナーの様子】

カ 成果等

イベント当日は、多くの家族連れで賑わう中、会場に「ターゲットボッチャ」の体験コーナーを設置し、来場者には体験をとおして楽しみながら、障がい者スポーツを知ってもらえるよう理解啓発に努めた。

「ターゲットボッチャ」はルールがわかりやすく、障がいの有無や年齢に関わらず誰もが取り組みやすい障がい者スポーツであるため、初めて体験する家族連れの小さな子どもたちにも好評であり、多くの来場者が体験をとおして、障がい者スポーツに触れてもらうきっかけとなった。

また、スポーツ大会の開催においては、昨年度から徳島県障がい者スポーツ協会と連携をした実施の継続が図られているところであり、今回新たに徳島県障がい者社会福祉事業団のイベントと連携することで、多くの地域住民の方に障がい者スポーツに興味を持ってもらうきっかけとなる啓発活動ができた。今後も徳島県内での子どもたちのスポーツ活動を支えるネットワークを拡充・構築していくことで、児童生徒の卒業後の継続したスポーツ活動へと大きくつながることが期待される。

4 活動の成果と課題

本県の特別支援学校におけるスポーツ活動の振興を図るとともに、生涯にわたってスポーツ活動を継続するための基盤作りの発展・充実を促進するため、本事業を実施した。近年は新型コロナウイルス感染症防止のため、活動制限を受けたり、計画が中止されたり、従来どおりのスポーツ活動の実施が困難になる中、前事業で検討、実施したコロナ禍における新たな開催方法等を活用・工夫することで、計画どおりに取組を実施することができた。

本事業では、前事業から見えてきた課題解決に向けた取組として、①スポーツ大会の開催、②指導者派遣、③各関係機関との連携を3つの柱として取組を進めた。

「①スポーツ大会の開催」については、オンラインを活用した競技の開発により、現地会場とオンライン会場を併用した新たなスポーツ大会の開催方法により、コロナ禍においても計画どおり4つのスポーツ大会を開催することができ、スポーツ活動への参加機会の確保につながった。また、オンラインでのスポーツ活動はコロナ禍における時間や距離の制約を超えた誰もが参加しやすい環境の設定ができたことにより、県外や海外ともつながるなどスポーツをとおした新たな交流の場となっており、今後のスポーツ活動への大きな可能性を感じる。

また、大会開催におけるアンケート結果では、児童生徒の大会参加への満足度が約84%、次大会への期待度が約95%、スポーツ活動への取組意欲の向上が87%であった。このことより、大会開催と児童生徒のスポーツ活動に対するモチベーションは大きく関連付けられることがわかった。今後も大会開催を継続することで、生涯スポーツとしての一層の定着やスポーツ活動への取組意欲の維持・向上を図りたい。

「②指導者派遣」については、モデル校6校を定め、各学校や地域の実情に応じたスポーツ活動に取り組んだ。実施種目は、全国大会や地域大会などを目指した活動や児童生徒の実態や学校の実情に合わせた活動など6校ともそれぞれ違った種目に取り組み、合計24回にわたり講師を派遣した。大会出場を目指した実践校では、各校ともコロナ禍において各種大会が中止、延期となり取組意欲の低下や維持が課題となっていたところ、専門の指導者派遣により、講師の的確な指導やハイレベルな技術指導に刺激を受け、練習に対する意欲や向上心が高まるとともに、全国大会や地域大会での活躍につながった。また、児童生徒の実態や学校の実情に合わせた取組を実施した実践校では、これまで経験が少なかった競技種目への試みや継続してきたスポーツ活動の見直し・改善を目指して実施した。児童生徒の実態に応じたスモールステップでの指導や課題に焦点を絞った専門家ならではの指導は、児童生徒の技術力の向上やスポーツ活動に対する興味関心を高めることができた。また、教員の指導力向上にもつながっており、今後の各校におけるスポーツ活動の普及促進・充実が期待される。

「③各関係機関との連携」については、本県では昨年度より県障がい者スポーツ協会と連携したスポーツ大会を開催している。今年度は、地域住民の方へ障がい者スポーツの普及啓発を目的とし、新たに県社会福祉事業団と連携を図り、多くの方に障がい者スポーツに体験を通して触れてもらう機会とすることができた。また、今年度の事業の実施にあたっては、前事業の成果を生かして多くの関係機関と連携を図った取組を行うことができた。今後は、関係機関との連携をより充実させ、在学時からの情報提供や地域施設の活用、卒業後のスポーツ活動に関するネットワークの構築を図り、卒業後の児童生徒が安心してスポーツ活動に取り組める環境整備につながられる取組を検討していく。

なお、本事業をとおし、特別支援学校における運動・スポーツ活動の促進には、児童生徒が活躍・自己表現できる機会や場の重要性を改めて感じる。今後はアフターコロナの社会を見据えたスポーツ活動を推進するとともに、特別支援学校の児童生徒が生涯をとおしてスポーツ活動を継続できる基盤作りの発展充実を目指し、共生社会の実現に向けた取組を推進してまいりたい。

令和4年度 スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)

令和5年3月発行

徳島県教育委員会特別支援教育課